

燃費測定に移行を踏まえた評価方法

自動車のカatalogの燃費表示は、参考5に記されているように、本年7月から従来の10・15モードと、新しいJC08モードが順次併記され、2011年4月からJC08モードに一本化される。

JC08モードの特徴として、10・15モードよりも実態に即した燃費値であることが挙げられる。その結果、車両によって異なるものの、JC08モード燃費の方が10・15モード燃費より概ね1割程度低くなる傾向があるといわれている。このため、JC08モードを採用することにより、

- ランニングコスト（燃料費分）の正確な見積もりが可能となること
- それにより（燃料消費量が上がることによって）相対的にランニングコストの重要性が増し、結果的に環境負荷量（CO₂排出量）をより重視した評価となること
- 最終的にライフサイクルコストの正確な見積もりが可能となること

などが期待される。

したがって、ライフサイクルコスト、環境負荷量の把握の観点からは、早急に10・15モードからJC08モードへ移行することが望ましい。しかし、現時点ではJC08モードが公表されているのは一部の車両にとどまっており、JC08モードによる同一条件での比較考慮は困難な状況となっている。

今後新規に契約を結ぶに当たっては、自動車製造者にJC08モード燃費の記載を促しつつ、なるべく早い段階でJC08モードによる評価に移行するのが適当であると考えられる。